

第 32 号
 (発行所)
 真宗大谷派
 松岡山 廣讚寺
 中村区城屋敷町3-30
 TEL (052) 411-5301
 FAX (052) 411-5341

ご命日の集いに参加して

八月二十八日、朝から暑い猛暑の連続である。大誠寺の集いをふと思いついた。忘れていた自分の頭の中に気付けて頂けた力はどこから来たのだろうかとうれしかった。忘れていた理由をさぐる。午前十一時ごろ来客との対応のためかとも思う。本日は平成二十二年度の第一回二十組行事のテキストを頂く日でもある。自分で記入していた手帳を気付けてくれたこれこそを他力の教えとでもいうのかと思った。

支度、昼食、：シャツ、ズボン、持参する物、念珠、同朋奉讚、記入するボールペン等。万端ととのえたつもりでバス停に向かったが、途中で敬老パスのないの気がついた。わが家までいそいで戻る。

名古屋大谷高校教諭 生田亮先生

第七回「法難テーマ何によって他人を裁くのですか」

ご命日の集い連続講座である。

親鸞聖人をもっと身近なところで感じとらねばならぬ文化、文明、生活がどれだけかわったとしても、かわらぬ人間の心をもっと深く聞いたり見たりせねばならないという歴史を学ぶことが出来た。

◎お釈迦様は阿弥陀如来様の教えを身をもって知り修行され悟られた。

◎親鸞様はお釈迦様の教えを身をもって体験し、他力本願を民衆と共に聞法の道をひらかれた。

◎現在我々は唯可信斯高僧説を学ぶだけである。

浄土からのお手紙・蓮如上人のお文さまを何度も何度も読ませてもらう(易行)生活をおくるべきである。

◎それぞれの在家内仏様について学習した。

お内仏様
 朝には在家(勤行)正信偈同朋奉讚(三帰依文)
 (念仏の智慧を頂く)

夕べには今日一日の感謝同朋奉讚

(お文さまを読ませて頂く)

実行していく事が私たちの今まで教えてもらい学ばせていただいたご恩返しでないかと思えます。

帰りは若様の乗用車でありがとうございました。

(都)

阿弥陀経にてくる高弟子第四「摩訶迦旃延」

まかかせんねん

伊藤和美

四番目は「摩訶迦旃延」です。彼は国の大臣の子供あるいは国師の子とされている。この国の王様はお釈迦様の説法を聴きたい、国の人々にも聞かせたいと志を起し、迦旃延に命じお釈迦様を招待するため派遣されました。迦旃延は七人の従者を共に釈尊のお姿と説法を聴き、この人こそ私にとって大事な人だと考え、七人の従者を先に国に帰しました。そして王命など忘れて出家し、真剣さも手伝い彼の仏道はいちじるしく磨かれ、弟子の中で論議第一といわれました。

迦旃延が王命で来た事をよそから聞かれた釈尊は迦旃延に対して、お前の志はよく分かる。しかし王命は粗末にできません。一度国に帰りなさい。迦旃延はウツジューニ国に帰りました。

その後釈尊はその国を訪ねませんがオレンジ色の衣服が氾濫(はんらん)した出家者が多くでたことは論議第一と言われた迦旃延の努力があったからだといわれる。

意地悪婆さんと優先席

まさ

私は地下鉄をよく利用する。満員時に優先席の前に立つ。座っている若者は、たぬき寝入り・読書・携帯電話のいずれかである。たまに何もしていない若者が良心の呵責(かしゃく)に耐えかねてか、席を譲ってくれます。そんな時は、「今どこも悪くないから」とか「次降りますから」と断っていた。

その話を聞いた人生の先駆者でもある賢人に「素直に『ありがとう』と好意を受けなさい」と、注意されました。私の真意は、健常者の若者は「この席に座るな」と暗黙のうちに教えたかったので、意地悪婆さん(ばあ)を演じてきました。

最近足腰も弱ってききましたので、こんな場合「ありがとうございます」とあいさつをして素直に譲っていただいています。それにつれて最近の私の顔、いささか穏やかになったとお思いませんか？

農園日記(その3)

中島義光

今年の夏の猛暑はあまりにも異常で雨が極端に少なかったため農作物への影響は大きかった。農園でも梅雨明けまでは

生育の良かった作物も梅雨明け十日ほどで葉枯れが目立ち始め、水の補給が欠かせない作業となった。水の補給量で作物の生育にはつきり差が出たのは里芋であった。農園で夕刻にたっぷり水補給した畑は葉枯れも少なかったが、水補給の少なかつた畑は生育が止まり、葉枯れもひどく葉が黄ばんで見ることから作物が水をほしがっているようだ。私は朝晩二回水補給したのですが、それでも夕方一回水補給だった昨年より葉が枯れ、日照りの異常さを痛感した。

九月二十二日が十五夜だったので里芋の初掘りしてみたが、一株あたり芋二十個ほどで何とか芋は生育していた。まだ小粒のため今掘るのには早すぎると感じた。十分生育するのは十二月あたりか？

廣讚寺芋煮会は昨年同様十二月半ばが良さそうです。



廣讚寺同朋会について

伊藤和美

真宗大谷派同朋の会は、宗祖親鸞聖人七百回御遠忌法要を契機に始まり同朋新聞が毎月発行されることになりました。廣讚寺でもその新聞を読む会すなわち廣讚寺同朋会が七十人で結成されました。その年昭和三十七年に名古屋教務所に申請登録しました。それ以来、来年で五十年になります。

その後、同朋会運動を強力に推進するため本山では各教区を指名して推進員の養成を始めました。我が廣讚寺も推進員養成講座に参加して推進員が誕生しました。その推進員による新同朋会が昭和五十二年に創立され来年で三十五年です。

真の真宗門徒になるため毎月廣讚寺本堂で同朋会を開き、住職の説教を始めおつとめのけいこや寺の仏事のお手伝い、会員相互の親睦(しんぼく)のバス旅行、また別院や二十組で行う講習会等にも出席しています。夏には子供が喜ぶ金魚すくい・輪投げ・ビンゴゲーム等を行い、総会では会員亡き人の追悼を行いアトラクションとして寸劇やコント芝居もやり、本堂を我が家のごとくなごやかに念仏をとなえています。

このような廣讚寺同朋会に入会されませんか。そして一緒に念仏をいただきます。現会員六十人と共にお待ちしています。

三句抄

惠美

滝しづき

心のひだの

洗はるる

成虫式

無事に終えたる

蟬の穴

春駒の

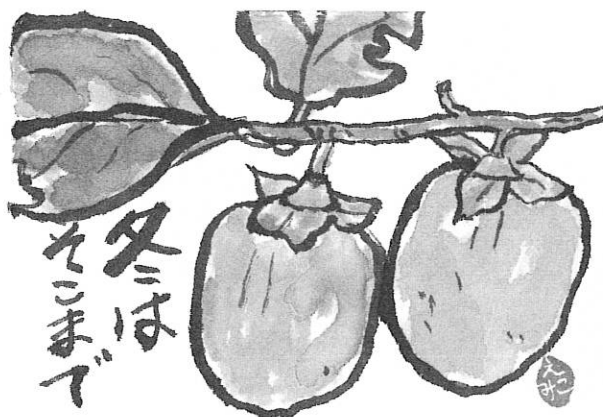
下駄はねあげる

おどりかな

【20組行事案内】

本山日帰り団体参拝

・十一月二十四日(水)



行事予定

十一月二日(火)二時 常任委員会

十三日(土)七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(金)二時～四時 学習会

二十八日(日)九時 おみがき・おとき

二十八日講・女人講

【報恩講執行】

十二月三日(金)九時 仏華・華東準備

四日(土)十時 おつとめ・法話

おとき

五日(日)十時 おつとめ・御伝鈔

おつとめ

本澄寺 明仁師 絵伝説教

おとき

一時 おつとめ・絵伝説教

十一日(土)七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(日)二時～四時 学習会

二十八日(火)十時 二十八日講・女人講

三十一日(金)三時 歳末勤行

十一時半 除夜